

雜 錄 Miscellaneous

熱帯アジア、東アフリカ旅行記 (其二)

佐々木舜一

Syuniti SASAKI: Journy of the Tropical Asia and the East Africa (II)

9 月 29 日 晴

明日ハシンガポールニ着クト云フノデ、客ハ相當ニソワソワシ出シタ、時計モ昨夜半ニ30分遅ラシテ居ル。

早朝船長カラ午前10時カラ難船操練ヲ上甲板デアルカラ全員残ラズ参加シテ呉レトノ通知ガアツタノデ、棚ノ上ノ救命器ヲ取出シテ其着用法ヲ馴レタボーイニ教ハリ、コルク又ハカボック製ノ救命器ヲ中心トシテ前後ニシツカリ縛リ着ケ、用意成ツテ時ノ至ルヲ待つテ居ル。上級船員ハ客ヲ所定ノ位置ニツケ、其實際ノ場合ニ於ケル指導ニ大童トナリ、下級船員ハ各々部署ニ着テ上ヲ下ヘノ大騒デアル。10時非常汽笛ガ幾回トモ無ク鳴リ互リ、船ハ停船スル船長ハブリッジニ立ツテ命令一下操作ガ始マル、救命艇引卸シ、ポンプ練習等デ大變デアル救命信號ノ發火器ガ總出動シタガ、大分倉庫ニ入レラレタ儘ナノデ濕氣ヲ食ヒ、爆發セナイノデー同ガツカリ啞然トシタ。更ニ別物ヲ取り出シ裝備スル、今度ハ見事ニ成功シテ先端ニ錘ヲ着ケタ繩ガ發火ト共ニ勢ヨク千尺餘ニ飛ブ、何デモ本品ハ救命船ト連絡ヲ取ル爲メ投繩法デ實ニ巧ク考ヘタモノダ、一同拍手喝采デ大喜ビダ、20分モ練習ヲヤル、客ハ見物ダ、再ビ汽笛ノ聲ト共ニ中止シタ。

晝ハ暑イノデ室デ讀書ニ耽ル、蓄音器ヲ取り出ス。夕刻カラデツキゴルフ等ヲヤル。

夕ハシンガポール外、南洋方面上陸者ノ爲メニ後部A甲板デ船長主催ノ歟燒會ガ催サレタ、涼ヲ入レテシャツ一枚ノ輕装デ、莫座敷ニアグラ座ノ純日本式ダ、左右ニ幔幕ヲ張り、櫻ノ造花、雪洞等ヲシツラヘテ最モ景氣ノ好イ陽氣サヲ見セテ居ル。

客ハ主トシテ日本人ダ、内數名ノ歐洲人モ居ル、一同打ツテー丸トナツテ歡談、飲酒、克ク飲ミ、克ク食ヒ、且ツ歌フ、段々酔ガ回ハル、果テハ一等招宴ノミデ物足ラズ、二等招宴ニ躍リ込ミ、全ク泥酔シテ前後不覺ノ境地ニ躍進シテ大騒ギヲスルノデ、遂ニ室ニ幽閉サヘ餘儀無クサレタナンセンスモアツタ。

風ハ左舷カラ良ク這入ツテ長閑カナ乗船ヲ見セテ居ル、明晩ハ満月ト云フノニ既ニ丸イ月ガ何等障ルモノ無キ蒼穹ノ間ニ懸ツテ居ル。

船長ハ酒ハ弱イガ客ヲ置イテ立ツ譯ニモ行カナイノデ、多少迷惑ナ狀態デアツタガ燈臺ガ見エ出シタトノ報告ヲ得テ渡リニ船ト立チ上ガツタ、之ニ次ガ運轉手モアツタ。

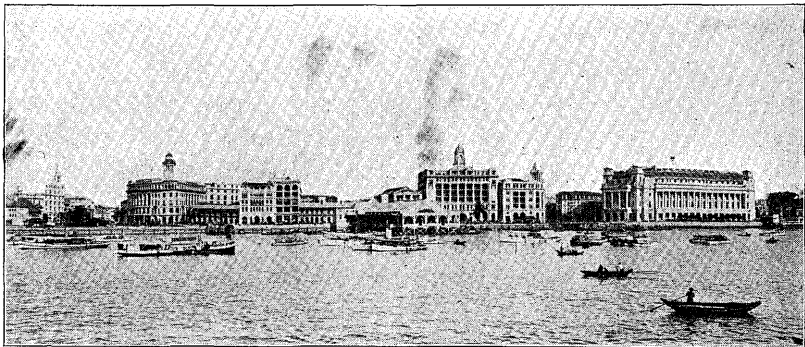
9 月 30 日 シンガポール着

鏡ノ様ナ南洋ノ海ハ丸デ盆ノ上ヲ走ル様デアル、朝風呂ヲ浴ビテ室ニ入り、電氣扇ヲ掛ケテ東窓ヲ眺ムレバ旭光ハ最モ麗カニ海面ヲ照ラシテ遠クニ低平ナル廣イ島々が浮キ、孤礁ノ上ニ黑白ノ横縞ノ有ル燈臺サヘ載セテ居ルノガ手ニ取ル様ニ見エル。

甲板ニ出デテ右舷ヲ見レバ之レ又大陸ヤ島が見エ、人家ラシイノガ波打際ニ見エテ居ル。一帯ハ非常ニ低イ山々デアル。

左ノ低平ナル島々ノ中央ニ當ツテ大キナ摺鉢ヲ伏セタ様ナ圓錐形ノ高イ山ガーツト、其横ニ大分小サイ同型ノ山々ガニュート抜キ出テ居ル。何デモアナンバス島トナツナ島デアルサウナ。

午前9時半、右舷ニ模糊タルシンガポールハ浮城ノ様ニ前面ニ數層ノ大厦、高樓ヲ櫛比シ、前ニ數多ノ汽船ヲ並ベテ接近シテ來タ。既ニ上陸者ノ爲メニ移民局ノ官吏ガ乗船シテ旅券ノ検査ヲ喫煙室デ始メテ居ル、船ハ段々速力ヲ緩メテ極メテスローニ進行シテ居ル。



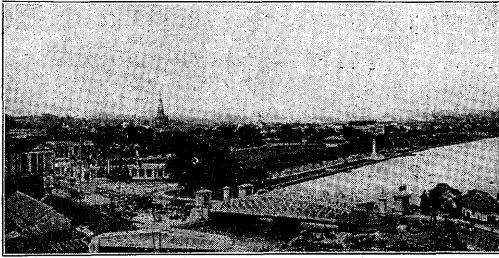
第4圖 シンガポールノ埠頭

程經テ沖繩船ラシイ漁船ガ左右ニ浮ンデ居リ、馬來土人ノ小船モ數十トナク彙集シ來ツテ銀貨ヲ水中ニ投ゲトロ催促スル、此處ハ香港ヨリハ少シ大掛リデアル、之ニ釣ラレテ銀貨ヲ投ゲル客モ相當ニアル、小船ノ中ノ老弱相競ツテ海中ニ躍入り、忽ニシテ拾ヒ上ゲテ客ニ示ス、客モ興ジテ又投ゲル、最早ヤシンガポール、香港銀貨ヲ投ゲ盡シタト見エ、小船ノ方デハ日本銀貨デ宜シイ等人ヲ馬鹿ニシタ横着サヘ拔カス奴モアル、正ニ南洋風景デアル。一老水夫ノ如キハシガーヲ啣ヘテ海中ニ飛込ム、途端ニシガーヲ逆ニ啣ヘ直シテ水中深く深入シ、上レバ又逆ニ啣ヘ直スト云フ藝當ヲ演ズル。其神速、練達筆紙ニ盡シ難イモノガアル。其中、私等ノ白山丸ハ静カニ岸壁ニ着テ、迎ヘノ知友相呼ビ相應ヘテ此處ニモ異國風景ヲ展開スル。棧橋ノ上ニハ印度人、支那人、馬來人、日本人、歐人等アツテ人種ノ展覽會ヲ思フモノガアル。

頭ニ綿布ノターバンヲ纏ヒ、腰間ニ縞布ヲ卷キ、跣足デ四方ヲ徘徊スル印度人ガアル、皮膚ハ飽ク迄灰黑色ニ染マリ、私等ノ曾テ見タ事ノ無い異様な色澤デアル、餘リノ酷サニ此奴

一人ノ別特色デハ無イカト思フテ 四周ヲ見廻ハセバ他ニ寸分違ハナイ連中ガゴロゴロシテ居ルニハ驚イタ。體ノ中デ白イ處ハ眼ノ玉ト。掌ト足ノ裏バカリデアル。世界ハ廣イ。今後ドンナ人物ガ登場スルヤラ。港ハ廣ク水ハ深く、深緑滴ル鬱林ヲ載セタ島々ハ、海水ノ靜カサト相對比シテ得モ言ハレス美景デアル。

本船ニブリツヂガ架ケラレルト共ニ税關ノ役人、其他ノ人々ガ續々入り來ツテ船内社交室



第5圖 シンガポール市一部ノ風景

ハ埋メ盡サレル、石射公使ノ歡迎ハ最モ盛ンデアル。

私ノ宿ラントスル碩田館ホテルノポーターノ顔ガ見エナイノデ、不慣ノ土地トテ聊カ喰ツタガ、ボーイニ探シテ貰ヒ遂ニ見付ツテ荷物ヲ托シ共ニ上陸シタ。

タクシーヲ傭ヒ、驀地ニ海岸近

クノ市街ニ入り、ビジネスセンターニ近ク大厦高樓ヲ左右ニ見テ進ミ又海岸ニ出デ、錢々タルユニオンビルトカ新造ノ郵便局ノ前ヲ通り橋ヲ渡リ、ビクトリヤホール廣イクリケット芝生ヲ左ニ見テ見事ナ *Eugenia malascensis* ノ並木ノ中ヲ通り、右ニ輻輳スル船舶群ヲ眺メ、左ニ並木ヲ通シテ高く聳ユル本市唯一ノ公式寺院セントアンドリュウ教會ヲ仰ギ、Beach Road ノ古色蒼然タル長屋旅館碩田館ホテルニ入ツタ。

旅館ハ四層ノ長屋ノ一劃ヲ占メ、前ハ兵營ガ有リ、港内ハ一眸ノ下ニ見エル。

景色ハ萬點ダガ旅スル日本人、輻輳スル客人デゴッタ返シデアル、而モ室ハ古ク、洋館ヲ唯妙ニ木賃宿式ニ改装シテアルノデ全ク見ラレナイ様ナ變挺ナー風景デアル、情無イ日本人ノホテル、唯此等日本人宿屋ノ特長ガ萬事萬般旅客ノ便ヲ圖リ、パスポート、案内、兩替



第6圖 シンガポール市ノビジネスセンター

ノ便、紹介、荷物ノ預リ等家族的ニ心置キナク世話シテ呉レルノト、和食ト日本語ノ使ヘル便宜ガ充分アルノデ、此點ハ外國人ホテルノ無味乾燥ナルニ比ベテド程仕合セスルカモ判ラヌ。

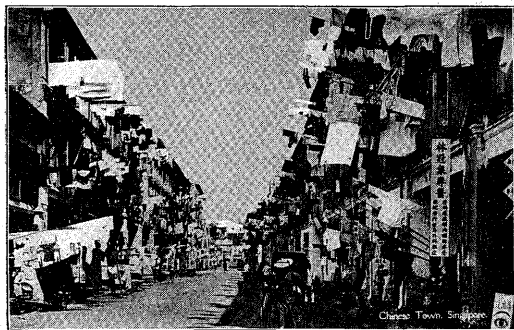
未ダ見ヌ友、堺理喜太氏、照屋全昌氏ニ急ギ面會シテ長イ外國生活ト、當地ニ於ケル事情ノ一端ノ教ヲ乞ハネバナラヌノデ、日本商

品陳列館内ノ三階事務所ニ兩氏ヲ訪問シテ敬意ヲ表シ、一度ホテルニ歸ル。

船ハ明日出帆スルノデ多少ノ時間ガアル、ソコデ午後2時車ヲ驅ツテ照屋氏ノ東道デ有名ナシボンガール植物園ニ向フ、廣イアスファルトノ Orchard Road ヲ東ニ走ル、市街ハ最モ殷賑デ商賈軒ヲ並ベテ顧客ハ雜沓シ、人車、自動車、無軌道電車が織ル様ニ通ル、此附

近ハ一帯ニ香港ニ比ベテ人モ大分ユツクリシテ居ル様ニ見エル、車上カラ處々ニ散在スル果物屋モ見ラレ、まんどすちん、まんど、木瓜、ばなな、文旦、ばいんあつぷる等ノ熱帯果物が旨マサウニ陳列サレテ居ル。

左ニラフルス博物館、圖書館、女子高等學院等が見ラレテ郊外ニ出ル、涼風ハ颯ト車窓ニ



第7圖 シンガポール支那人街ノ風景

吹キ込ム、あめりかむノ並木ガ處々ニ植エラレ、左ノ植木屋ノ畑ニハみどりさんごニ似タ *Vanda Miss-Joquin* ノ桃色ノ花ガ今ヲ盛リト咲キ亂レテ居ル。廣イローンヲ有ツ兵舎ガ坂ノ上ニ有リ、右ハ一帯ニコンモリシタ高イ丘デ邸宅ガ各處ニ散在シテ居ル。

植物園ニ着ク。門前ニ車ヲ停メテ徒歩デ行ク。門ヲ入レバ風景一

變都會ノ風塵ヲ他所ニ、科學ノ殿堂ト、都會人士ノ疲レタ心身ヲ清淨ニスル特殊ノ境地ガ展開サレ、左ハ低ク、右ハ緩カナ傾斜ヲ見セテ樹木有リ、樹林有リ、草花有リ、此間美事ナローンハ數キ詰メラレテ私等ガ日本デ見タ植物園ト云フモノト數段ノ差ノアルコトヲ先ヅ八州第二ト印象付ケラレタ。如何ニモ規模ハ大キク、設計ハ見事ニ、植物ノ種類ハ豊富ニ、年代ノ古イノト、保存ノ完備ト、道路ノ整備ト、清淨ナルコトハ以テ手本ニスルニ足ルモノガアルニ氣付イタ。

門ノ左ニ先ヅ眼ニ入ルハ熱帯花木ノ中デモ録々タル名アル寶冠木 *Brownea macrophylla* 及其他ノ寶冠木ノ種類ガ集メラレ、次ニ莖カラ澱粉ヲ採ル *Sago palm*, *Meteroxylon Rumphii*, *M. longispinum* ト *Bambusa vulgaris* ノ叢林ガ有リ、右ニハ熱帯産蘭類デモ壯大ナルコトニ於テ右ニ出ヅルモノノ無イ鳳凰蘭 *Gramatophyllum speciosum* ガ他ノ樹幹カラゲート大株ヲ懸垂シテ居ルコトハ一寸度膽ヲ抜カレル。進メバ紅紫黃色ノ花モ貴ヤカニだんどく *Canna* spp. ノ寄植エガ有リ、其間亭々ト *Araucaria*, *Casuarina*, *Ducidium* 等ガ天ニ聳エテ居ル、殊ニいかだかづら *Bougainvillea* spp. ノ蒐集ニ相當ニ骨ヲ折ツタラシク南米諸地方カラ新ニ輸入セラレ、大ナルアリ、小ナルアリデ花色、花客モ色々デアツテ少クトモ珍コレクシヨントタルヲ失ハナイ。近クニハアフリカノ奇木ヲ以テ鳴ルばおぼ樹 *Adansonia digitata* ト熱帯花木ノ王ト云フ瓔珞木 *Amherstia nobilis* ノ植エラレテアルニ力強く感ジタ。

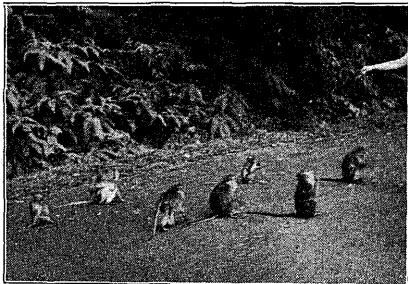
左ニ大キナ池ガアル。清水ヲ湛ヘテ家鴨ト鷺鳥ガ浮ンデ居ル。水中ニハ各種ノ睡蓮ガ色々ナ花色ヲ見セテ浮キ、水際ニハ天南星科ノ *Lasia aculeata* ガ我國ノかはほねニ似テ更ニ壯大ナ景色ヲ見セテ良ク繁茂シテ居ル。

池ニ中島ガ有ル。此島ニハ亭々ト聳ユルにぼん椰子 *Onchosperma tigllaria* ト、らりすたこのき *Pandanus Laris* トガ植エラレテ長幹叢出、水ニ映ジ風景ノ美ヲ遺憾ナク添ヘテ



第 8 圖 シンガポール植物園ノ池

設ケテ主トシテ羊齒類ト天南星科植物ヲ陳列シ、馬來半島ヲ中心トスル地方ヨリ蒐集シ中々六ヶ敷イト云フ植物ノ栽培ニ成功シテ居ル。此日蔭室ノ南ニ硝子室ガアリ、蘭科植物ガ多ク入レラレテ居リ主トシテ *Dendrobium*, *Vanda*, *Coeloglyne*, *Spathoglottis* 等ノ開花セルモノ、今將ニ開花セントスルモノヲ陳列シテ居ル。其蘭ノ大部分ハ園長 R. E. HOLTUM 氏ノ官舎ニ培養シテ居リ、開花時ニ其一部分ヲ此處ニ陳列スルサウデアル。



第 9 圖 シンガポール植物園内ノ野生猿

展開サレテ此處ニ至ツテハ個人(?) アツテ親モ子モ、友モ、兄弟モ、妻モ全ク無ク、僅ニ幼兒ニ對シテノミ互譲ノ美德ガ有ルラシイ位ノモノデアル。其ノ淺マシサ、面白サハ生物ノ生存競争ノ弱點ノ手本ヲ見セテ居ル。人間ノ中デモ之ニ近イ連中ガ大分居ル様ダ、心スベキデアルト思ツタ。客ハ次カラ次ヘト自動車デヤツテ來テ相當ニ樂ンデハ立チ去ル。中々盛ンナモノデアル。此餌ヲ賣ル土人ノ群サヘ有ル。猿ハ園内ニ野生シテ居ツテ敢テ惡戯モシナイラシイガ、時折り老猿ガ子供ニカラカツテ嚇スノデ少シ宛銃殺シテ此危險ヲ除去シテ居ルラシイ。

左ノ椰子園ヲ見ル。場所モ廣ク種類モ相當ニ集メラレテ居ルガ、ばいだら椰子 *Corypha umbraculifera* ノ老成シテ葉ハ殆ンド枯落シ、僅ニ幹頭ニ花梗ヲブラ下ゲテ居ルモノト、籐類ノ大分伐採サレテ居ルヲ見タ位デ今日ハ何分ニモ一日ノ寄港デ先ヲ急グ私ニハ緩クリ見ル事ガ出來ナイ。歸リニ詳細ニ視察スルコト、シテ惜クモ立チ去ル。5 時元來タ道ヲ一先ツ旅館ニ歸リ、照屋サント別レテ更ニ船ニ戻ツタ、時ニ 5 時 50 分。

居ル。時間ノ關係デ再ビ車ニ乗り池ヲ左ニ見テ右ニ曲ル、唯々其壯大ナル景觀ヲ車上ヨリ眺ムルノミデアル。

一寸蘭室ト日蔭室トヲ見ル、外壁屋上ニハ各種ノ蔓莖植物ヲ絡マセテ居リ、門口ニハ老成セル麋角羊齒 *Platyserum grande* ノ大株ヲ下ゲテ如何ニモ熱帶ラシイ感ジヲ出シテ居ル。

日蔭室ハ2棟カラ成リ、南北ニ並列シ棚ヲ設ケテ主トシテ羊齒類ト天南星科植物ヲ陳列シ、馬來半島ヲ中心トスル地方ヨリ蒐集シ中々六ヶ敷イト云フ植物ノ栽培ニ成功シテ居ル。此日蔭室ノ南ニ硝子室ガアリ、蘭科植物ガ多ク入レラレテ居リ主トシテ *Dendrobium*, *Vanda*, *Coeloglyne*, *Spathoglottis* 等ノ開花セルモノ、今將ニ開花セントスルモノヲ陳列シテ居ル。其蘭ノ大部分ハ園長 R. E. HOLTUM 氏ノ官舎ニ培養シテ居リ、開花時ニ其一部分ヲ此處ニ陳列スルサウデアル。

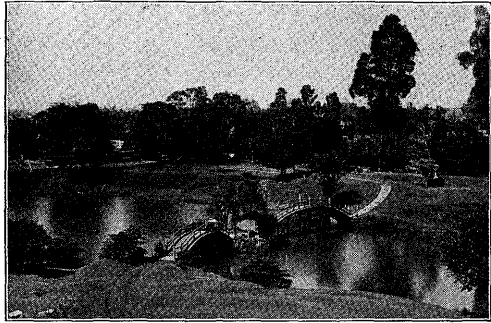
日蔭室ヲ出デ椰子園ニ向フ。右ハ大ナル樹林デアツテ雲ヲ突ク胸圍ノ喬木ガ林立シ、樹下樹蔭ヲ好ム色々ナ草本類、灌木類、蔓莖植物ガ繁茂シテ晝尙ホ暗ク、中ニ這入ルノモ氣持ガ惡イ位デアル。左ノ小高い丘ノ上ニ瀟洒ナ亭ガ有ル。

右ノ林ノ角ヲ曲ガル。路ニ無數ノ馬來猿ガ何十トナク木カラ木ニ飛ビ、木カラ道ニ飛ビ出シテ客カラ南京豆トバナナヲ強請ツテ食ツテ居ルガ御互ニ隙ヲ窺ツテハ食物ノ爭奪戰ガ

夜ハ曇ツテ月サヘ見エナイ、風ハ有レドモ甲板丈ケデ室内ハ全ク焦熱地獄デアル。流汗淋漓、拭ク汗モ容易ニ收マラナイ。夜遅ク迄本ヲ讀ンダリ書キ物ヲシタガ尙ホ暑サハ引カナイ。11 時、モウヨカラウト思ツテベッドニモグリ込ンダラ其儘前後不覺ニ睡ツテ仕舞ツタ。ガ途中眼ガ覺メテ見タラ夜具モ着物モビシヨビシヨデアル。着物ヲ着替ヘ電扇ヲ掛ケ放シニ床ニ入ツタラ夜ノ明ケルノモ知ラデ寢込ンデ仕舞ツタ。

10 月 1 日 晴 シンガポールカラペナンヘ

午前 6 時汽笛ノ音ニ眼ヲ覺シ甲板ニ出ヅレバ四方ノ島ハ薄ク靄ニ包マレテ海峡ハ繪ノ様ニ美シイ。曲ツタ



第 10 圖 シンガポールノ日本式ガーデン

岸壁ニハ白堊褐色ノ煙突ヲ着ケタ大キナ船ガ高イ燈臺下ニ 2 艘繋ガレテ居ル。海峡ニ臨ンデ鐵砲風呂ノ煙突ノ様ナ煙突ガ 2 個高ク並ンデ煙ヲ吐イテ居ル。

向ヒノ島ノ上ニハ見事ナ洋館ガ樹蔭ヲ通シテ數軒並列シテ居ル。客ノ大部分ハ上陸シテ居ルノデ、何トナク淋シイ。

6 時半、先ノ岸壁ニ居タ大キナ船ガ切りニ汽笛ヲ鳴ラシテ一艘ノランチニ引カレテ靜ニ出港スル。獨逸ノ汽船ラシイ舳ニ Posdam Bremen ト書イテアリ、2 萬噸モアラウ、後橋高ク赤地ニ逆マンジノナチス旗ヲ掲ゲテ朝風ニ吹カレツ、出テ行ツタ。ランチハ直ニ引き返シタ。

午前 9 時昨日依頼シタ用足シノ爲メ再び上陸、商陳ニ堺、照屋ノ兩氏ヲ訪問ノ後、萬事ノ用務ヲ終ヘ、同道ダ兩氏ハ船ニ送ツテ下サツタ。

船ハ靜ナ汽笛ヲ合圖ニ正午纜ヲ切ツテ海峡ヲ西ニ横切ラントスル、左右ハ狹ク、丘上ニ樹木アリ、人家アリ、水淀ム水際ニまんぐろーぶ林、數十ノ軒ヲ並ブル草葺ノ水上生活者ノ部落等ガアツテ眼先ヲ變ヘツ、進ム。附近ハ樹木ガ多クテマルデ植物園ノ中ヲ行ク様ダ。波ハ靜デ風光殊ニ明媚デアル。

漸次陸ニ遠ザカリ行クモマラッカ海峡ノ事トテ通行ノ船舶多ク Tonjong Pier ド云フ亞細亞大陸ノ最南端ヲ北ニ見ツ、北緯零度 12.3 分ヲ西ニ通過スル。

シンガポールデ直グ横ノ岸壁ニ繋ガレテ居タベルダムノシャルンホルストト云フ 2 本煙突ノ軍艦ノ様ナ船ハ時速 20 哩ヲ越ススピードデ後ヲ追ツテ來タガー時間程ノ後ニハ面憎クモ横ヲスツト通り抜ケテ仕舞ヒ、果テハ其姿サヘ水平線上カラ消エテ仕舞ツタ。

多クノ人ノ經驗シタコトデアラウガ恐ラク船ニ乗ツテ外ノ船カラ尻食ヘ觀音デ抜カレタ時程癢ニ障ハルコトハ無ク、外ノ船ヲ抜イタ時程愉快ナコトハ無イ。人生ノ行路モ恐ラクコンナモノダラウ。私等ハ抜ク人ノ立場ニナツタ事ハ無イカラソノ愉快ナ經驗ヲ知ラナイガ抜カレル不愉快ハ抜カレツケテ居ルカラヨク判ル。人々ノ出發點ト個人ガ持つ能力、四圍

ノ狀況要素ノ差ガコンナニ等差ヲツケル。附ケラレルコト、ハ初メカラ知リナガラ、聊カ悲觀セザルヲ得ナイ立場ニアルコトモアル。

日ハ暮レタ、満月ハ東天ニ昇ツタガ曇ツテ居ルノデ判ツキリシナイ。惜シイモノダ。風ハ左舷ニヨク這入ル。明日ハペナンデ乗客ノ大部分ガ上陸シテ見物スルサウダカラ私モ驢尾ニ附シテ上陸シヨウト申込ンダ。食堂デマンゴノ初物ノ御馳走ニナツタガ少シ未熟デオイシクナカッタ。

10 時暑イガベッドノ上デ印度ノ本ヲ讀ンデ居タラ、ノツクスルモノガ有ル慌テ、起キテ見タラ電報デアル。即チ長崎無電局經由デ臺北帝大ノ日比野教授カラ「ゴアンコウワイノルビビノ」トノ電報ガ來タ。洵ニ恐縮至極デアル。氏ノ御親切ニハ日頃カラ感謝シテ居ルモノノ一人ダガ、凡ソ二千哩ノ離レテ知ルベナキ印度洋上デ此電報ヲ頂戴シタノニハ嬉シクテ唯々涙ノ感激ノミガ浮ビ出ルノデアツタ。早速御返電ヲ打タネバナラナイガ到着ガ遅クナルノデ御迷惑ヲ思ヒ、翌日ニ延期シタ。

餘リ暑イノデ甲板ニ出タガ、此處ハ又別天地デ涼シイコト限リガ無イ。船ハ滑ル様ニ兩舷下ニ白波ヲ立テ、進航ヲ續ケテ居ル。

釋尊ハ菩提樹ノ木ノ下デ四諦十二因緣ヲ觀ジテ魔軍ヲ降服シテ東天ニ明星ノ光輝ヲ仰ゲ時、廓然トシテ大悟セラレタ、生死ノ海ニ沈淪セルモノハ津筏ヲ得、無明ノ暗ニ昏迷セルモノハ燈炬ヲ認メタ、此ノ如ク思ヒヲ 2500年ノ古ニ馳セテ此樹ヲ仰ゲナラバ一種莊嚴ノ光ガ樹梢ヲ包ム様ニ感ゼラレタ、ト泉芳璋氏ハ述ベテ居ルガ私等ノ様ナ凡夫ニハコソナ奥床シイ考ヘモ起ラネバ、大悟モ徹底セヌ、何トカシテ今少シ人間ラシイ生活ヲシテウマイモノヲ食ヒタイ、樂ンデ見タイト無明ノ暗ニ出ル事ノミヲ考ヘル哀レサ、唯淡イ月ヲ眺メテ、打チカ、ル白波ヲ見テ思ヒヲ未ダ見ヌ旅先ニ馳セルノミデアツタ。

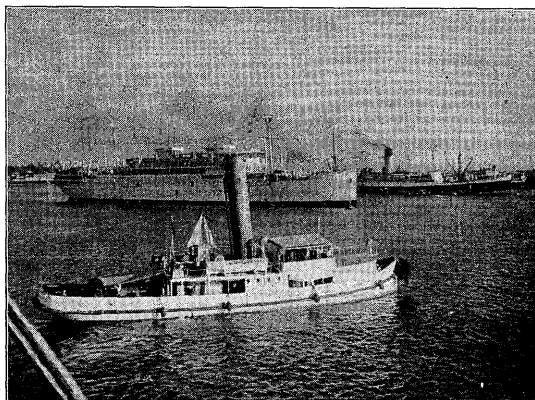
10 月 2 日 ペナン港寄港

船ハ馬來半島ヲ右ニシテ北々西ニ進ム、斷雲深ク罩メテ山容明カナラズ。午後 3 時頃急ニ目睫ノ間ニ陸が見エ出シ、市街サハ見エ、船ガ大分碇泊シテ居ルノサハ見エ出シタ。海ハ淺ク褐色ノ潮水ガ泡サハ浮ベテ廣ク一面ヲ覆ツテ居ル。附近ニ小島多クシテ樹林ハ繁茂シ、椰子サハ茂ツテ居ル、船ハ速力ヲ緩メ、海深ヲ測ツテボツボツ進ム、アレガ彼南 Penang ダト云ヒ出シテカラ却々港ニ這入ラナイ。漸次滿山椰子ノ林ヲ載セタ樹林ガ續キ、林中處々ニ土人ノ家屋ヤ洋館ノサツパリシタ建築物ガ三々五々ト見エル。3 時半漸ク市街ガ手ニ取ル様ニ見エ出シタ。シンガポールデー足先ニ出帆シタ例ノ獨逸汽船シャルンホルストガチヤント向フニ投錨シテ居ル。午後 4 時警察ノ船ガ來ルト前後シテ 1 哩モ沖合ニ錨ヲ降ロシタ。錨テブリツダガ下リル、エハガキ賣ト、兩替屋ガ處狹シト迄乗込ミ、五月蠅ク買ハナイカ、換ヘナイカト一人一人ヲ摺ヘテ交渉スル。コチラハ旅人デ、相場ノ判ラナイノヲ寄貨トシテ太イカスリヲ取ル奴ガ有ルラシイ。

此處デー一寸彼南ノアウトラインヲ紹介スル。彼南港ハ Penang 又ハ Prince of Wales Island トモ稱シ、馬來半島ノ西岸カラ 2 哩離レタ處ニ横ハリ、面積 299 平方 km ヲ有スル島嶼デアツタ新嘉坡カラ海路 370 哩ヲ算シ、島ノ中央ニ丘陵ヲ起シ最高地點ヲ Western

Hill ト唱へ海拔 2,722 呎アリ、平地及海岸ハ此山ヲ中心ニシテ取巻イテ居ル、全島ノ住民凡ソ 39 萬人デ首府ヲ George Town 普通ニ Penang ト云ヒ、島ノ北東ノ角ニアル。人口ハ市ノミデ凡ソ 16 萬人、馬來半島第二ノ都會デアル。

本市ハ馬來ニ於テ英國ノ第一番ニ手ヲ着ケタ植民地デアツテ 1787 年 Kedah ノ Raja ニヨツテ東印度會社ニ譲渡シタノデ



第 11 圖 ペナン港

アル。1805 年ニハ長官ヲ置キマドラス、ギンペー等ト同一地位ニ昇格サレタ。1826 年ニハシンガポール、マラッカト共ニ同一行政区ニ統一サレタガ、長官ハペナンニ駐在シテ居ツタ。1836 年ニ及ビ政府ハシンガポールニ移轉シタ。1876 年ニハシンガポール、ペナン及マラッカハ印度政府ノ治下ニ移リ知事ノミ駐在シ、ソレ以後ハ海峽植民地ト稱スル様ニナツタ。

1930 年ノ統計ニ據ルト市ノ豫算ハ收入ノ方デ 295 萬弗、支出ノ方デ 339 萬弗デアツテ市政ハ知事ノ監督ノ下ニ市民ヲ代表スル市政委員會ノ決議ニヨツテ市長ガ當事者トナツテ實行ノ衝ニ當ツテ居ル、貿易ハ盛況ヲ極メ 1930 年ノ輸入額 1 億 6 百萬弗、輸出ハ 1 億 4 百萬弗、何レモ半島方面カラ、スマトラノ物資ガ集散シ、出入ノ船舶 19,467 隻、13,951,000 噸ト云フ數字ヲ出シテ居ル。ダカラ東西ニ通過スル重ナル船舶ハ寄港シ、對岸ニハ縱貫鐵道モ通り、歐亞連絡ノ飛行機モ必ズ寄ツテ行クト云フ有様デアル、故ニ内外有名ナ會社、銀行ノ支店出張所ガ無數ニアル。

島ハ氣候ノ點カラ云ツテモ洵ニ立派ナ健康地デ、日中ハ 80 度乃至 90 度、夜ハ 70 度乃至 80 度デアツテ理想的ナ氣候デ、山頂ハ常ニ 10 度前後低溫ヲ示シテ居ル。住民ハ主トシテ支那人デ馬來人モ相當ニ居ル。

名所トシテハケープルカーガアリ、山頂ニクラブホテルガアル、此ホテルカラノ眺メハ眞ニ雄大絶佳デ、椰子ノ林間、海濱ノ白砂ニ映ジテ得モ云ハレヌ景觀ヲ形ヅクツテ居ル。又植物園ガアル。此植物園ト境ヲ接シテ工費 8 千萬弗ヲカケテ造ツタ水源池、蛇寺、支那ノ極樂寺等ガアル。

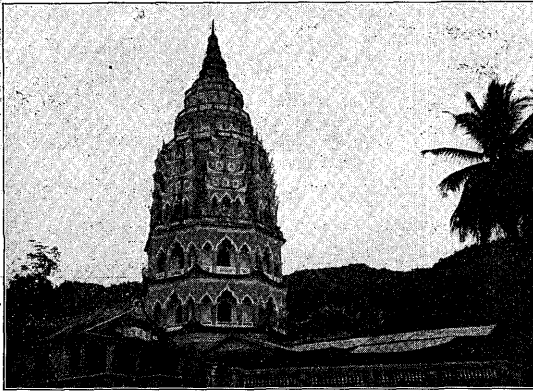
植物園ハモト保安林デアツテ Water Fall Garden ノ名ニヨツテ知ラレテ居リ、1786 年 Captain Right ガ此地ニ植民シタ當時カラ此地ヲ朴シテ植物ヲ蒐集シ、1884 年 Stanley ガシンガポール植物園長デアツタトキ植物園トシテ經營スルコトヲ計畫シテ同年カラ改造ニ着手シタノデアルガ今日デハ同園ハシンガポール植物園ノ分園トシテ管理セラレテ居ル。

面積ハ約 80 英町步デアルガ學術的價值トシテハサシテ無イガ、自然ノ風光ノ明媚閑靜

デアルノガ特徴デアル。本園ニハ有名ナル有毒樹木うばす樹 *Antiaris toxicaria* フ相當ニ栽エテ居ル。

コンナ豫備知識ヲ持チナガラ 4 時半—同ト共ニランチニ乗船シテ棧橋ニ着ク。上レバ左ニ賣店ガアル、エハガキ、兩替、煙草ト少許ノ果物、酒類ヲ陳列シテ盛況ヲ呈シテ居ル。

印度人ノ展覽會ノ様ナ處ダ、漆黒、長身、鬚ヲ生ヤシ、例ノトルコ帽ヲ被ツテ、サア市内見物バドゥダ、蛇寺、支那寺、植物園ト 3ヶ處デ自動車 2 時間デ 1 人 1 弗乃至 2 弗ト云ツテ五月蠅ク附キ纏フ、Penang 案内記ニハ良カラヌ奴ガ多数ニ居ルカラ注意セヨト書イ



第 12 圖 ペナン支那寺ノ新塔

テアルノデウツカリ信用モナラズ、來ル額付モ額付モ殆ドソナ連中ラシク感ズルノデ、何レヲ信用シテ良イカ判ラヌ、而モ私ト同行シテ渡歐ノ途ニアル柴田中佐、長谷川判事、大西醫學博士ノ諸氏ハ出來ル丈ケ見物モ良イガ出來レバ英語ノ會話ノ練習ガシテ見タイト云フノデ、自動車ニヨラズ外ノ方法デ見物シヨウトノ希望ナノデ他ノ方法ヲ考慮シタ。其結果丁度向フヲ通ル自轉車乗ノ巡查ヲ捕ヘテ見テ色々事情ヲ聴キ、結局電車デ第一ニ支那寺ニ行ク事ニ決メテ棧橋前カラ電車ニ乗ツタ。初メハ裏街ヲ抜ケ、更ニ支那街ヲ通り町端ニ近ク出タ。Tramway Office ノ前デ此處デ乗換ヘセネバナラヌトテ降サレル。右ヲ北面ニ行ク直線道路ガアリ、右側ハ兵舎ラシイ。此附近ニハ印度紫檀 *Pterocarpus indicus* ノ大並木ガアリ、以前ハ大分繁茂シタ立派ナモノダツタラウガ今ハ其儘樹形ヲ變ヘタモノモアルガ、處々枝ハ折レ樹ハ枯死シテ、伐採サレタ古株モアル。間モ無ク支那寺行ノ電車ガ來タノデ乗換ヘル。西ニ走ル、市街ヲ出ル、左右ハ白砂ニ椰子ノ林ガ整然ト氣持良ク林立シ、別荘ラシイ明ルイ建物ガ林間ニ點在シテ家ノ近所ニまんどすちんノ果樹園ガ多く、いんどそけい *Plumiera acutifolia* ノ白花ヤ紅花ガ咲キ亂レテ馥郁タル花香ヲ風ニ漂ハシテ居ル。

York Road ヲ走ル。道ハ砥ノ様ニ平坦デアル。椰子ノ林ヲ抜ケル。遂ニ支那寺下ノ終點デ下車スル。附近ニハ支那人ノ部落ガアル。

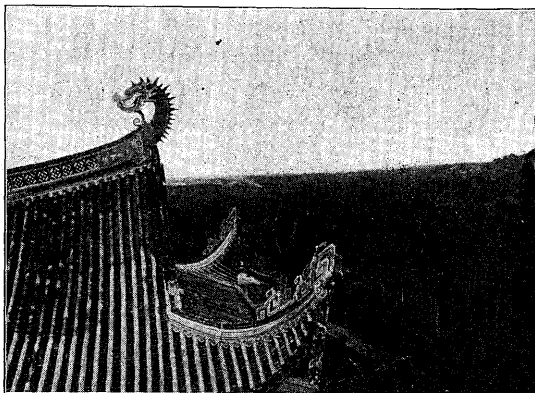
支那寺ハ直グ西北ノ山ノ稜ニ金色燦爛五彩ヲ放チ、巍然トシテ建テラレ、一團ノ圍地ヲ造リ、層々重ナリ合ツテ甍ヲ並ベテ居ル。

木橋ヲ渡ツテ山ノ斜面ノ廊下ヲ傳ツテ登ル。樓屋ハ次ヘ次ヘト建テ續ケラレ、色々ナ佛像ヲ鎮座シ、參詣人モ中々多イ。樓上ニ出レバ彼南ノ町ハ椰子林ヲ通シテ眼下ニ展開シ、風景百パーセントデアル。此附近ニ椰子林ノ多イ事フィリッピンニ負ケ無イ位デアル。

樓内ニハ木彫ヤ、大理石ノ佛像ガ多く、臺灣デ見ル廟ト變ルコトガ無イ。

右ニ新造ノ大塔ガアル。天ニ聳エテ中空ヲ歴シテ居ル。白壁ノ生地ニ金色、五彩ヲ鏤メテ全ク綺麗デアル。樓内ニ僧侶ガ數人居ル。佇立シテ彼等ノ語リ合フヲ聞ク、皆廈門語デアツテ私等ノ始終聽キ馴レタ臺灣語ソノモノデアル。日頃覺エタ簡單ナ事ヲ一二使ツテ見タラ良ク判ルノデ實ニ便利至極デアル、正ニ百萬ノ味方ヲ得タ心地ガシタ。イイ加減ニ見テ寺ヲ出デ先ノ小部落ヲ右ニ廻レバ立派ナ町ガ在ル。此處カラモーターカーガ彼南ニ出ルト云フノデ、ソレニ乗ルコトニシタ。

此車ハ極メテボビュラーナ穢イ10錢乗合デ彼南ノ Magazine ト云フ支那部落ニ向フ。電車ニ比ベテ全ク速イ、15分間ノ後ソノ支那街ニ着イタ。此處カラ植物園ニモ行ケルガ日ハ漸次落チテ行ツテ、モウ見ラレナイコトニナルノデ残念ナガラ遂ニ斷念シテ徒歩デ市街ヲ見物スル。穢イコトハ流石ハ支那街デアル、街道ニアセテリソノ瓦斯ヲ燈シテ色



第13圖 ペナン支那寺ヨリ市街方面ヲ望ム

々ナ食物ヲ賣イデ居ル。市場ノ附近ニ出ル果物、食物ノ小賣人ガ多ク、ノラクラ青年ガ雜音スル。此中ヲ押シ分ケ進ム中ニ私等ハ遂ニ2人宛ニ分レテ見失ツテ仕舞ツタ。街ノ様子ガ薩張り判ラズ、角々デ巡查ヤ通行人ヲ捕ヘテハ自分等ノ行先ヲ尋ネル、街ニ燈ノ無イ海岸通りニ出テ印度紫檀ノ大並木ノアル事ヲ發見シ、左ニ燈臺ヲ見テ進ミ、ハテハ3人連ノ印度人ノ紳士ヲシイモノニ教ヘラレツ、大厦高樓ノ櫛比スル business centerニ出テ Swettem Merchant Pier ノ處ニ着イタラ、柴田中佐ト大西博士ハモウ疾クニ着イテ居リ8時發ヲラントヲ待ツテ居ルデハナイカ、色々ナ物ヲ仕入レテ共ニ共ニ本船ニ歸ル。船ハ豫定ノ通り9時ニ纜ヲ解イテ愈々インド洋指シテ發航シタ。ビナンノ市ノ明リハ10分、15分ト船ノ進ムニ伴ヒテ薄ラギ行キ、9時半ニハ丘上ニアル2,3ノ燈ノ外ハ全部見エナクナツタ。

(續ク)

○大和大臺ヶ原ニへらごけ産ス

へらごけト云フ地衣ガ最初我が國ニ於テ發見セラレタノハ大正14年6月朝比奈先生ガ秩父三峰山ニ採集旅行ヲサレタ際當時學生デアツタ藥學士岡見清二氏ガ同山ノ中腹ノ朽木上ニ於テ發見シタノガ始メデアルヤウデアル。其ノ後、紀州高野山デモノへらごけガ發見セラレタ。我が國ニ於テ第2回目ノ發見デアル。ソノ後昭和3年7月下旬朝比奈先生ハ越中立山彌陀原ノ杉樹ニ着生セルヲ發見セラレ本邦ニ於ケル第3回目ノ發見トナツタ。其ノ後昭和5年8月28日岩手縣和賀郡澤内村長橋山ニ於テ、更ニ昭和7年7月ニ於テハ